



学校の窓から

令和2年9月24日号

10月31日 運動会を実施します

延期していた運動会を10月31日（土）に実施する準備を始めました。感染防止対策を行いながら、全児童で行いたいと思います。学校で行う運動会には、それだけの意味があると思うのです。

<運動会を行う意味>

1 学校の魅力は、ワクワクしながら文化を創造するところにあります。

子どもたちが学校で学ぶ最大の価値は「みんなでがんばる」ということです。一人ではできないことでも、友達とならできるということがあります。特に子どもたちが成長するのは、一つの目標に向かってワクワク・ドキドキしながら取り組む時です。みんなで知恵を出し合ったり力を合わせたりして新しい文化を創造しているのです。また、子ども同士が関わり合うことにより、多様な価値観や見方・考え方にふれ、人間としての幅が広がっていきます。今、コロナ禍でこうした貴重な経験ができにくくなっています。だからこそ、運動会はみんなでやりたいのです。

2 知育・徳育・体育をバランスよく進めることで子どもたちが成長します。

子どもたちの学力は、身体や心の動きと連動しています。むしろ、身体や心を動かせば動かすほど脳が活性化し、学力が高まっていくと言ってもよいと思います。知育・徳育・体育をバランスよく進めるために、本校では「元気に生活し、楽しく運動に取り組む子ども」を、めざす子どもの姿の一つにしています。臨時休業による時数減に伴う学習進度の遅れは、2学期末には取り戻せる見通しです。今は、運動会への取組を通してめざす子どもの姿を具現していく時だと思います。

3 上級生の自覚と責任、下級生の憧れと目標が子どもの成長を促します。

下級生は上級生が本気で走る姿を見て「自分も○年生になったらあれくらい速く走れるようになりたい」と目標にします。6年生は最高学年として係の仕事に責任をもって取り組んだり、学校の代表として鼓笛演奏をしたりします。下級生は鼓笛演奏を憧れの眼差しで見えています。このように、自分の成長を具体的な姿で見通すことが、子どもたちの成長を促します。運動会は、1～6年生がそれぞれの学年に応じた競技や役割に取り組むこと自体が、貴重な学びの場になると思います。

4 子どもたちの「今」は、今しかありません。

大人からすると「運動会は来年もできるのでは」と考えるかもしれませんが、成長の途中にある子どもにとっては、その時その時の運動会を経験することが大切だと思います。例えば、6年生は最高学年としての自覚をもって係活動や鼓笛演奏に取り組みます。5年生は「来年は自分たちがやるんだ」という意識で見えています。こうした意識が学校の伝統を継承していくのです。感染防止策は工夫できますが、運動会は経験しないと子どもたちの成長の機会をなくしてしまいます。感染リスクを低くしつつ、子どもたちの成長を促すために運動会を実施したいと思います。

<6年生は鼓笛の練習を再開しました>



<感染防止策及び変更点>

- 1 児童席の間の距離をとるために従来より広げます。それに伴って保護者の応援スペースが狭くなるので、参加人数を一家族2名までと制限させていただきます。（未就学児は参加人数の2名には含まれません。）
- 2 参加者を完全に把握するために、事前に保護者に確認して運動会参観用のネームカードを配付します。当日朝、カードに体温を記入した上で入校時に受付係員に提示してください。入校の際はマスクを着用してください。発熱や風邪症状がある場合は、参加を見合わせてください。
- 3 競技種目は各学年とも徒競走と団体競技、代表児童による紅白リレーと6年生による鼓笛演奏です。競技内容はできるだけ感染防止に配慮します。できるだけ時間短縮を図ります。
- 4 児童は競技中以外はマスクを着用し、こまめに手指消毒しながら参加できるようにします。

保護者の皆様のご理解をお願いいたします。